

市民からのお便り

(親子クイズ)今回は英語のため、少々時間が必要でした。頭の体操と頑張ってやっています。

市民からのお便り

(親子クイズ)アイルランドの祝祭日へ全く分かりません。六感で解答しました。4月の広報が楽しみです。

南国市に引っ越してきたら



プッシュ通知で行政情報をお届け!

1

役立つ行政情報を見逃さない!



2

自分に合わせた情報が届く!

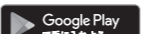


3

いろいろなマチの魅力をお届け!



ダウンロードはこちらから



※アプリの使用は無料ですが、通信費は各回線ごとのご負担となります。
※広告が表示されますが、各自治体とは何ら関係ありません。

マチイロに関する問い合わせは株式会社ホープ(092-716-1404)まで

ようこそ南国市へ!

奈路地区は山間ではありませんがよ
く土地が開発されています。しかし谷
川が底深くながれ、水利に恵まれない
ので水田に利用することはなかなか
困難でした。
江戸時代にこの地を領有していた
桐間氏は、水利の便をはかり水田を
作りたいと考えていたので、川村泰四
郎・代七の父子に命じて、中谷川の
水を引くために山に隧道を通し、奈路
に流す計画をたてました。両人は土
工頭シゲジを中心にとりかかりまし
たが、天井の崩落や湧水等に見舞わ
れ、工事は難航しました。
嘉永2(1849)年、約56mもの隧
道が完成し、中谷川の水を奈路に流
すことに成功しました。そのおかげ
で、田野々・新田・宮の谷・藤丘の各
地区を合わせて、四町歩の水田をうる
おすことができました。この功績によ
り、川村泰四郎父子には藩から五畝
余りの田が報
奨として下賜
されました。
隧道は両側
から掘り進め
られて中ほど
で合流してお
り、水路の勾
配等を計算し
て、高い土木

なんこく歴史散歩 第63回

奈路の隧道

技術によって造られています。出入り
口の大きさは膝をつかないと入れない
ほど小さく、当時の掘削は人ひとり
がやと作業を行えるくらいしか空間が
ないもので、工事の苦勞が想像できま
す。
場所は市道奈路黒滝線に沿って、奈
路小学校から約1.5km上った峠道の脇
に説明看板があり、そこから約20m
下ったところ。今も隧道が山を貫
き、清らかな中谷川の水を奈路に送
りつけています。隧道の入口には隧
道が完成した記念の石碑が建てられ
ており、泰四郎・代七の名が刻まれ
ています。



奈路の隧道(奈路)



奈路の隧道石碑(奈路)



問い合わせ
生涯学習課文化財係
802・6062

親子クイズ 551

Q クロスワードパズルです。カギをもとに下のマスを埋めてください。
A~Fのマスの順に並べて出来る単語は何でしょうか?

タテのカギ
【タテ2】ステーキを食べるときにフォークとセットで出てきます。
【タテ4】マイナス思考の反対語。○○○思考。
【タテ6】軍隊の一種。海軍。空軍。○軍などがある。
【タテ7】虫を捕まえる道具。
【タテ8】天皇后をかたどった雛人形、3月3日に飾りましょう。内裏。
【タテ9】質量(重さ)の単位

ヨコのカギ
【ヨコ1】「春」も「パネ」も英語でこう言います。
【ヨコ2】紫色で卵の形をした野菜。高知は生産量が全国一!
【ヨコ3】家族を英語で。○○○○レストラン。
【ヨコ5】○○あれば苦あり。
【ヨコ7】ドライ○○。○○マスク。
【ヨコ8】川をせき止めています。

1	4	6		9
	5		F	
2			8	
	C			
		7		
B		A		
3			E	

単語
A
B
C
D
E
F

【第550回解答】 【第550回当選者】

MARCH

- 金野 大助 (篠原)
南 幸子 (陣山)
小松 豪 (比江)
門田 眞弓 (植野)
長崎 和香 (緑ヶ丘)

★応募総数/40通 ★正解率/98%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

■応募締切/4月9日(月)必着
■あて先/〒783-8501
南国市大埔甲2301
南国市企画課「親子クイズ係」
*はがきで応募
■賞品/正解者の中から抽選で、5名に図書カード(1,000円)を贈呈

新しい命に出会う

花冷えの夜、熱いお風呂に入ったとき、いつもあのときのこと...陣痛が始まってその間隔が均等になり、いよいよ入院という時に入ったお風呂のこと、を思い出します。覚悟を決めて温かいお湯の中へ、じわじわ、ゆっくりと体を沈めていく。体が芯から温まり、つかの間のとても幸せなときでした。
陣痛の合間の、少し心が安らぐ時に入ったお風呂で、これからはこんなゆつくりと入ることができないなと思えました。戦場へ出かける前の清めのお風呂だと思ひ、あと数時間後に待望の赤ちゃんに会えることを楽しみにして...。
一方、不安に押しつぶされそうなきでもありました。どんなに泣いてもわめいても、自分が頑張らなければだれも助けてくれないからです。周りに体をさすってくれる看護師さんや、がんばれと声がけしてくれる助産師さんがいたとしても、最後は自分一人で耐えなければいけない、孤独の戦いです。実際、夫は体をさする手が止まってしまい、こっくり、こっくりとうたたねをしていて、私がかんなに苦しんでいるのにと無性に腹が立ちました。
けれども、陣痛の波の苦しい瞬間を何回か乗り切り、その後の大きな陣痛の波を乗り越え、我が子に出会い、抱くことができました。
幸せなことに私は、このような機会を何回か与えてもらいました。子どもによって誕生の場面が異なるため、その都度異なる誕生の感動を味わうことができました。皆、誕生の際には、人に命の大切さを教えてくれたり、感動を与えてくれたりして生まれてきたことを、知っていてほしいと思います。

このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願ひ、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

問い合わせ
人権啓発広報委員会
880・6569

